

訪問日時：令和7年3月27日（木）15:00～16:30

1. 訪問目的：

約20年前には「東海地震」、最近では「南海トラフ大地震」の発生可能性が取りざたされているが、豊田市においては、昭和19年12月7日の「昭和東南海地震」および昭和20年1月13日の「三河地震」以降、幸いにも大地震の経験がない。そのため、自身も含めて地震に対する危機感が薄いのではと感じる。しかし、経験がない部分は過去に地震が発生した地域を訪問し、地震被害、復旧・復興の様子を実際に目で見ることおよび現地の体験者の話を聞くことで学習ができるのではと考え、今回訪問した。

2. 訪問先

熊本地震震災ミュージアムKIOKU

住所：〒869-1604

熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽5343-1

電話番号：0967-65-8065

E-mail：kioku@minamiaso.infoHP：<https://kumamotojishin-museum.com/kioku/>**3. KIOKU 中核拠点施設整備の目的（HPより抜粋）**

熊本地震を経験した私たちは、地震の記憶や経験、教訓を風化させずに後世に伝えていく必要があります。

熊本地震震災ミュージアムKIOKUは、平成28年（2016年）

熊本地震の記憶や経験、得られた教訓を確実に後世に伝え

る回廊型のフィールドミュージアム「熊本地震 記憶の回廊」の中核拠点施設として整備しました。

当館では、震災遺物の展示や当時を振り返るシアター、震災遺構、各種プログラムを通して、熊本地震の被災の様子、その発生メカニズム、そして防災について学び、人と自然との共生のあり方について考えていただくことができます。



中核拠点全景（HPより）

**4. 熊本地震について（内閣府防災情報 事例コード 201601より抜粋）****①発生日時**

前震：平成28年4月14日（木）21時26分

本震：平成28年4月16日（土）1時25分

②震源及び規模

前震：熊本県熊本地方（北緯32.44度、東経130.48度）、震源の深さ11km、モーメントマグニチュード Mw6.5

本震：熊本県熊本地方（北緯32.45度、東経130.45度）、震源の深さ12km、モーメントマグニチュード Mw7.3

③地震の発生状況

平成28年4月14日21時26分に熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード6.5、最大震度7の地震が発生し（前震）、その後4月16日1時25分に同地域を震源とするマグニチュード7.3、最大震度7の地震が発生（本震）した。2度の震度7に加え、熊本県及び大分県を中心として、3日間で震度6を5回記録したほか、過去の直下型地震と比較しても長期にわたって規模の大きな余震が頻発したことが特徴であり、なかでも発生から5日間での有感地震は2,000回に達した。

④被害状況

人的被害として、死者211名、重傷者1,142名、軽傷者1,604名となった。また、建物被害として、全壊家屋は約8千棟、半壊家屋は約3万4千棟、一部損壊家屋は約15万3千棟等、被害はあわせて約21万棟に及んだ。

また、各地で190件に及ぶ土砂災害が発生し、道路寸断等の物的被害をもたらしたほか、ライフライン被害も甚大であり、なかでも水道の復旧には約3ヶ月を要した地域（南阿蘇村）も生じた。

これらの直接被害に加えて、農林水産業、観光業への地域産業への影響も大きい。

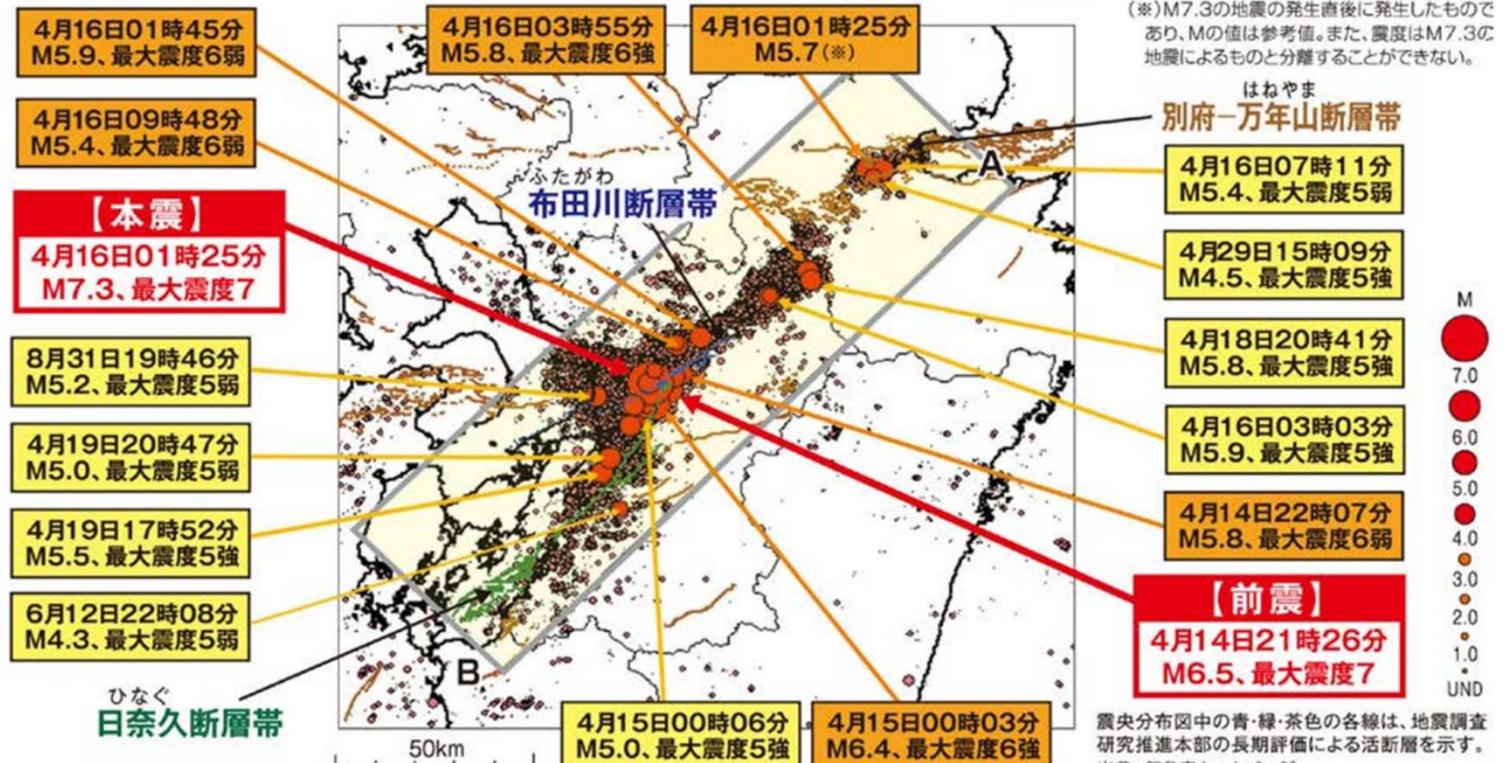
震央分布図

(2016年4月14日21時00分～2017年2月6日12時30分、M全て、深さ0～20km)
M5.0以上の地震、または最大震度5弱以上の地震を濃く表示

(2/9)

凡例 震度7 震度6 震度5

(※)M7.3の地震の発生直後に発生したものであり、Mの値は参考値。また、震度はM7.3の地震によるものと分離することができない。



⑤避難状況

熊本地震による避難者数は、熊本県内で最大18万人、大分県内で最大1万人に上った。避難所としての活用が予定されていた公共施設が被災等により不足したことにより一部ホテル・旅館等でも避難者の受入を行った。また、頻発する余震の影響で建物内への滞在に不安を抱いた被災者が多くみられ、車中泊による避難で駐車場が埋め尽くされるといった状況のほか、広大な敷地にテントを貼ったテント村も建設された。

こうした状況を受け、応急的な住まいの確保対策として、応急仮設住宅4,303戸が平成28年11月14日までに建設されたほか、民間賃貸住宅の空室提供によるみなし仮設住宅の提供戸数は12,155戸（平成28年12月13日集計、決定通知済み件数ベース）、公営住宅は全国で11,888戸確保され、このうち1,836戸が入居に至った（平成28年12月14日時点）

5. 震災ミュージアム施設について（※注記なき画像は筆者撮影）



1) 施設概要

- 中核拠点はKIOKUエリアと震災遺構エリアで構成
- KIOKUの建物は、大西麻貴+百田有希/o+h（東京）、産経設計（熊本市）
- KIOKUエリア**は第1展示室、第2展示室、第3展示室および企画交流ラウンジで構成

エントランス横：地震により破壊された阿蘇大橋の橋梁

第1展示室：「その時」の記憶をたどる

熊本地震その時シアター、モノと写真が語る熊本地震、熊本地震ドキュメント

第2展示室：熊本の大地を知る

大地に見る熊本地震、布田川断層帯はぎとり標本 他

第3展示室：自然とともに生きるために

熊本地震の教訓と“自分事化”、未来に向けた復興

企画交流ラウンジ：語り部との交流や関係機関による企画展示等

旧東海大学阿蘇校舎1号館：

建物の真下を断層が貫いており、断層の活動による建物への影響を見ることができる

地表地震断層：地面の隆起や亀裂、地面の横ずれを見ることができる

ONE PEACEロビン像：ONE PIECE熊本復興プロジェクトにより、麦わらの一昧の「ロビン」の像が設置されている（熊本市、阿蘇周辺、宇土市に計10体の銅像を設置）

2) 展示内容

・KIOKUエリア



第1展示室：「その時」の記憶をたどる



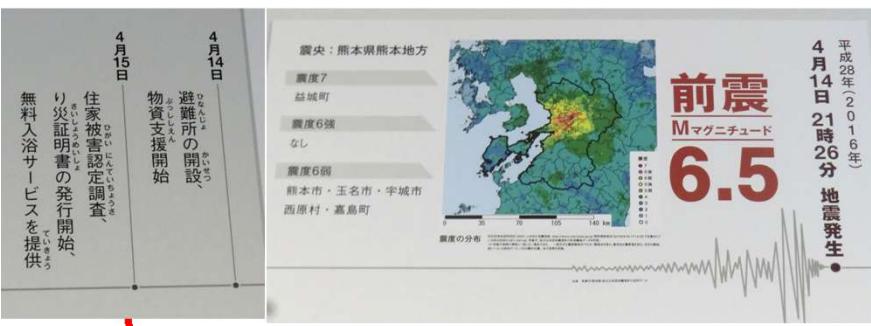
避難所

給水の行列

車中泊

脱出口

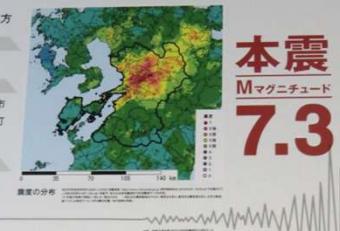
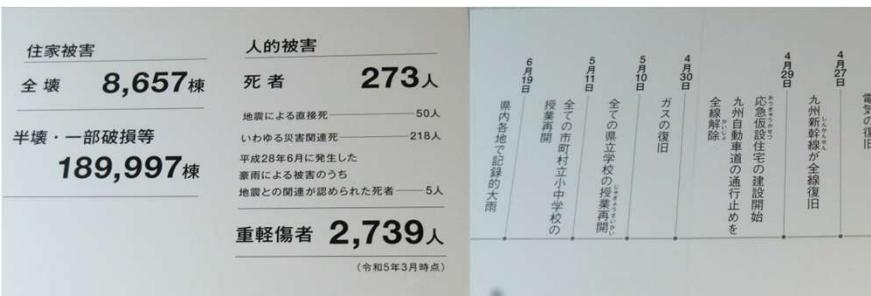
県内各地の被害



熊本地震ドキュメント

Kumamoto Earthquakes Chronicles

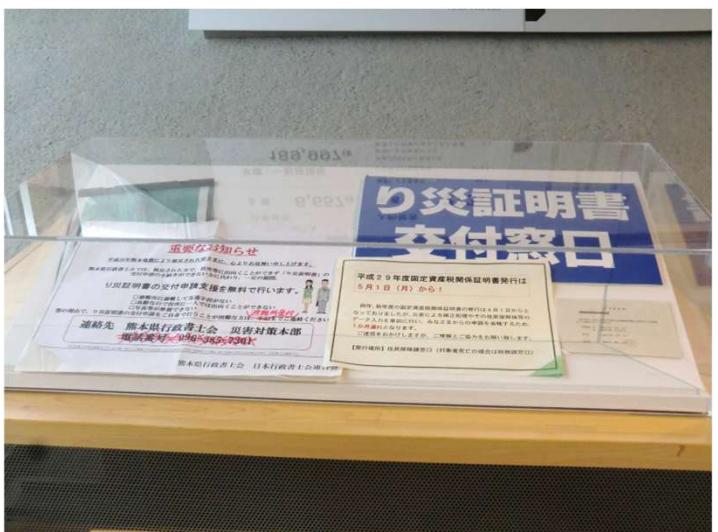
平成28年(2016年)熊本地震は、観測史上初めて、同一地域において震度7の地震がわずか28時間の間に2度発生しました。震度1以上の地震回数は4,400回を上回りました。



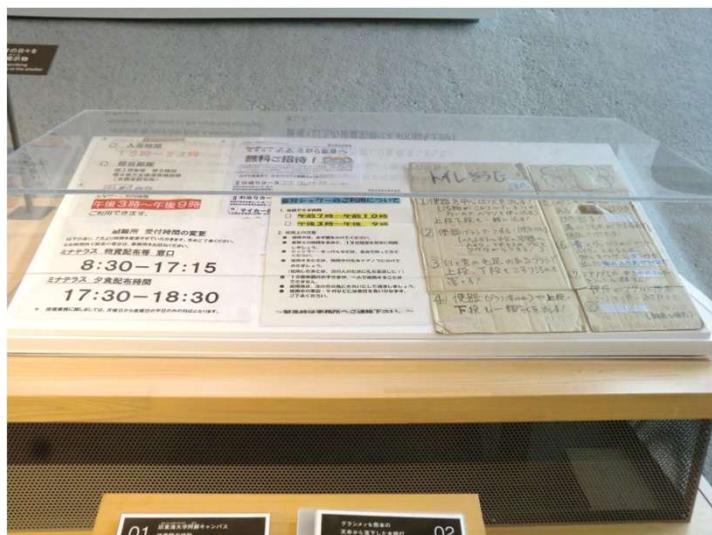
④熊本地震ドキュメント



⑦展示コーナー全景



罹災証明書等



避難所での案内



宮城県東松山市からの応援メッセージ

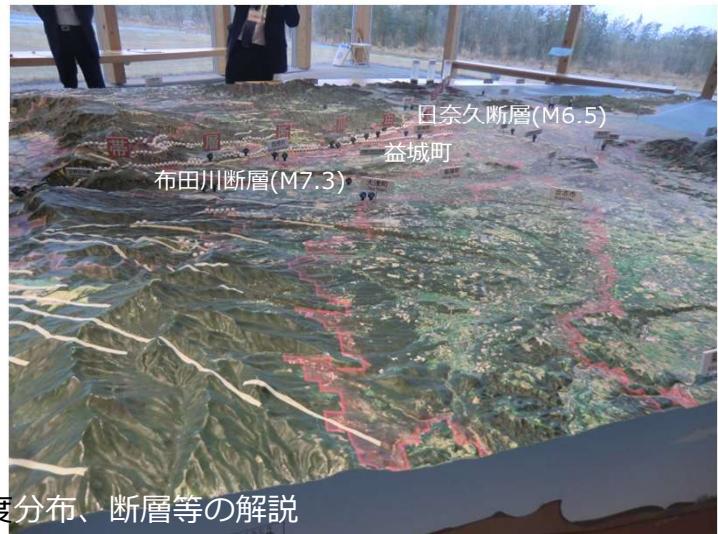
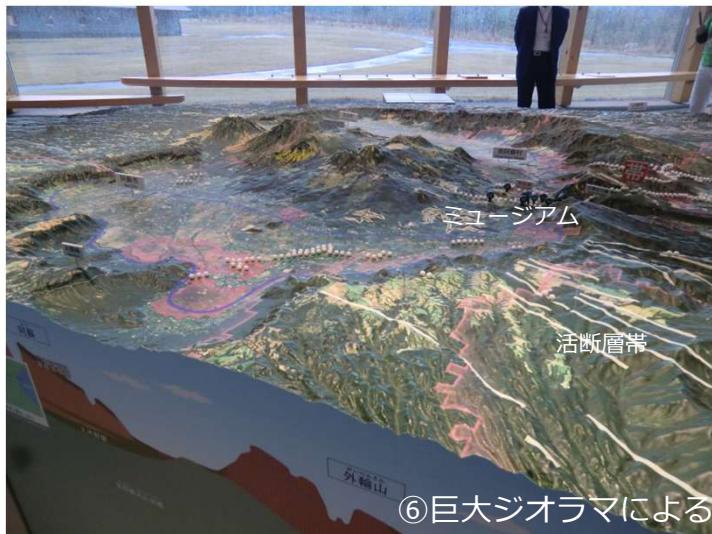


応援メッセージ (一部)

・KIOKUエリア



第2展示室：熊本の大地を知る



標本スペック	
断層名	布田川断層帯
調査主体・関係団体	熊本県、名古屋大学、東洋大学、広島大学
寸法	縦2.9m×横2.95m
トレンチ調査と標本製作時期	2020年2月～3月



⑦4布田川断層帯剥ぎ取り標本

第2展示室その他展示 (KIOKU HP)



熊本地震 発生のメカニズム映像



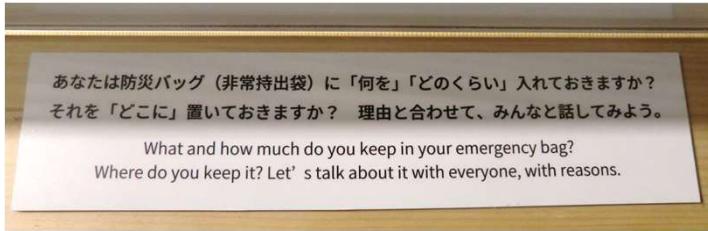
⑧第3展示室3自然とともに生きるために



第3展示室入口



熊本地震の教訓と“自分事化”



防災バッグ（非常持出袋）サンプル



非常用簡易トイレ サンプル



ONE PIECE熊本復興プロジェクト

震・震災遺構エリア





1号館内部



玄関側から見た崩落跡（数鹿流崩）



地表地震斷層



学生会室跡



ONE PIECE ロビン像

6. 数鹿流崩之碑 展望所

- 震災ミュージアムより南東約1kmの国道57号線沿いにある展望所。ここからは、崩落した阿蘇大橋および大規模な斜面崩壊跡の「数鹿流崩れ」を展望することができる。





崩落した阿蘇大橋



崩落前の阿蘇大橋 (Wikipedia)

国道57号から分岐した所にあるアーチ型が特徴の橋だったが、2016年（平成28年）4月16日の熊本地震で橋の直下の断層が動き、橋脚を支える地盤がずれたことにより崩落した。（中略）その後の調査で、地震の前後で橋脚を支える地盤の位置が右岸側は約2 m、左岸側は44 cm、橋を圧縮する形でずれていたことが分かった。このずれにより橋のアーチ部が破壊されるほどの力がかかり、崩落に至ったと考えられている。（Wikipedia）

7. 所感

- ・近頃はインターネット、SNS等で情報はいくらでも入手できるが、今回の訪問で被災した現物を目の当たりにし、大きなインパクトがあった。学習という意味では「現地現物」の言葉通り、現地を訪問し、見学できることでより理解が深まったと感じる。
- ・ガイドさんの

「自分でもこのような地震が起こるとは思っておらず、何も準備をしてなくて、いざ地震発生という時懐中電灯一つ取り出せなかった。」

「避難所に避難して、最初の1日、ないしは1日半は他人を気遣う、思いやる気持ちがあったが、1日半過ぎてからは自分のことで精一杯で他人のことまで到底気が回らなかつた。」

といった話は大変貴重な体験談であり、もっと多くの話を聞けば更に理解が深まると思う。

余談ではあるが、筆者が在職中に起こった「米国での大規模リコール」（2009～2010年）の後に開設された「品質伝承館（社内向施設）」でリコール問題の語り部として、特に2009年以降に入社した、リコール問題を知らない世代に対してリコール問題の経緯、品質の重要性を説いてきた経験がある。施設や展示物のみならず、熊本地震を経験された語り部（熊本県では語り部等養成研修会が開催されている）の話は、震災の体験を今後も伝え続けていくためには必要であり、なかつそこからの学びは多いと感じる。
- ・今回はたまたま熊本地震が対象となつたが、機会があればその他の震災記念館や水害に関する様々な遺構や記念館を訪問し、学んでみたいと思う。
- ・災害を経験していない若い人たちには、こういった施設を訪問し、施設の見学および経験者の話を聞くことで、防災に対する理解がより深まるので、是非訪問し、体験・学習をしてほしいと思う。

以上